

川崎市 立地適正化計画の策定に向けた中間とりまとめ オープンハウス型説明会の開催結果について

1 開催目的

立地適正化計画の構成、居住誘導区域及び都市機能誘導区域の設定、洪水浸水が想定されるエリアにおける届出制度の創設等の現時点での本市の考え方を具体化した「立地適正化計画の策定に向けた中間とりまとめ」の内容を市民に提示し、令和7年3月に予定している立地適正化計画の策定に向け、計画内容の周知・啓発や意見聴取を目的とします。

2 開催日時・場所・来場者数

	日時	場所	来場者数
①	1月26日（金）15時～20時	多摩区総合庁舎3階市民館大会議室	27名
②	1月28日（日）10時～15時	多摩区総合庁舎1階アトリウム	181名
③	2月3日（土）10時～15時	川崎市役所本庁舎2階ホール	29名
④	2月5日（月）15時～18時※	川崎市役所本庁舎1階101-102会議室	19名
⑤	2月8日（木）15時～20時	川崎市総合自治会館第1-2会議室	21名
⑥	2月10日（土）10時～15時	中原市民館2階第3-4会議室	36名
		合計	313名

※④2月5日（月）は大雪警報発令により開催時間を短縮

3 いただいた主なご意見・ご質問

（計画全体に関すること）

- ・川崎のような過疎化していない都市でも本計画を策定する必要があるのか

（居住誘導に関すること）

- ・今から居住地を利便性の高いエリアに集約していく考えがあるのか
- ・居住誘導区域外における建築・建替え時に制限が生じるのか
- ・居住誘導区域外に所有している土地・建物を売却・賃借する場合に規制等が生じるのか

（都市機能誘導に関すること）

- ・都市の活力維持には、既存の都市機能誘導施設の撤退を防いでいく必要がある
- ・都市機能誘導施設だけを立地させようとしているのか
- ・商店街を守っていくことで、地域住民の生活利便性が上がるので検討してほしい

（防災指針に関すること）

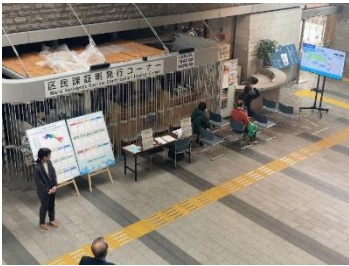
- ・洪水浸水想定区域の計画規模浸水深3m以上の区域には住まない方がよいのか
- ・洪水浸水想定区域の計画規模浸水深3m以上の区域における建築・建替え時に制限が生じるか
- ・災害リスクが高いエリアでは、住み替えができないようにしたほうがよい
- ・防災指針の中で復興についても触れたほうがよい

4 開催状況

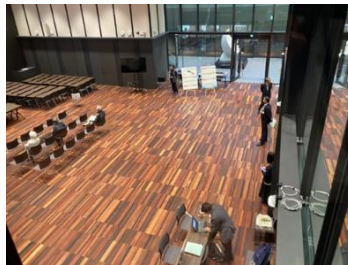
《①多摩市民館》



《②多摩区役所》



《③本庁舎 2 F》



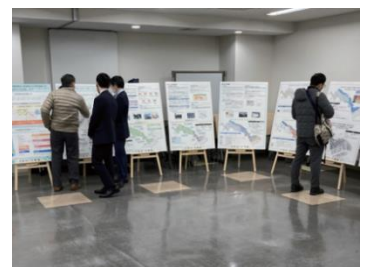
《④本庁舎 1 F》



《⑤自治会館》



《⑥中原市民館》



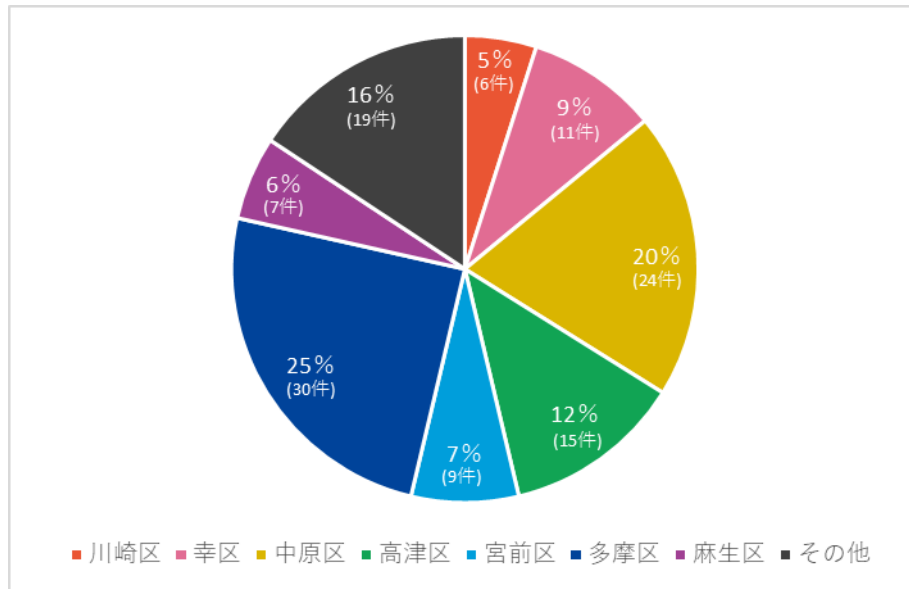
5 アンケート集計結果

今後の取組の参考とさせていただくため、説明会当日及びインターネット上でアンケート調査を行い、121名の方にご回答いただきました。

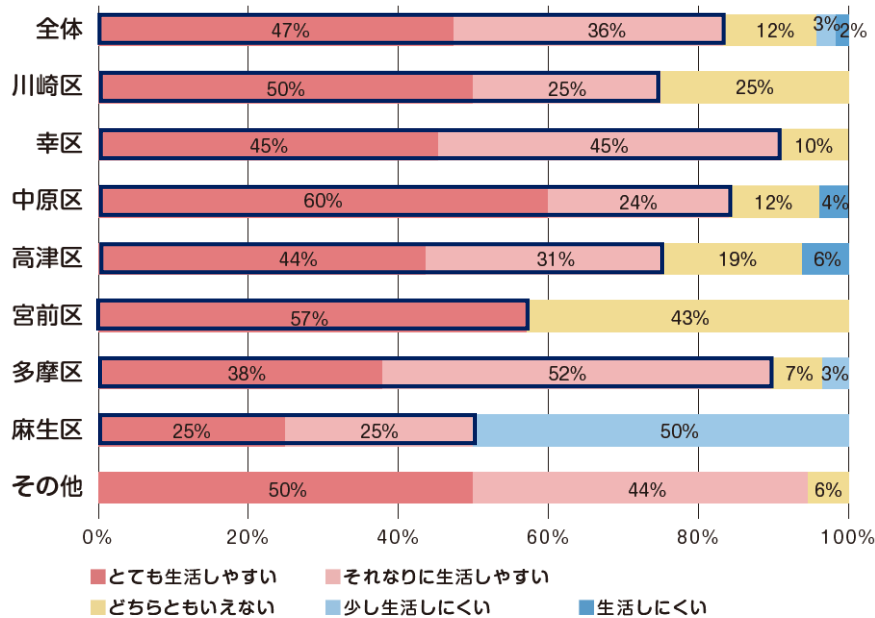
〈アンケート実施期間〉

2023年1月25日（木）～2月29日（木）

お住いの地域

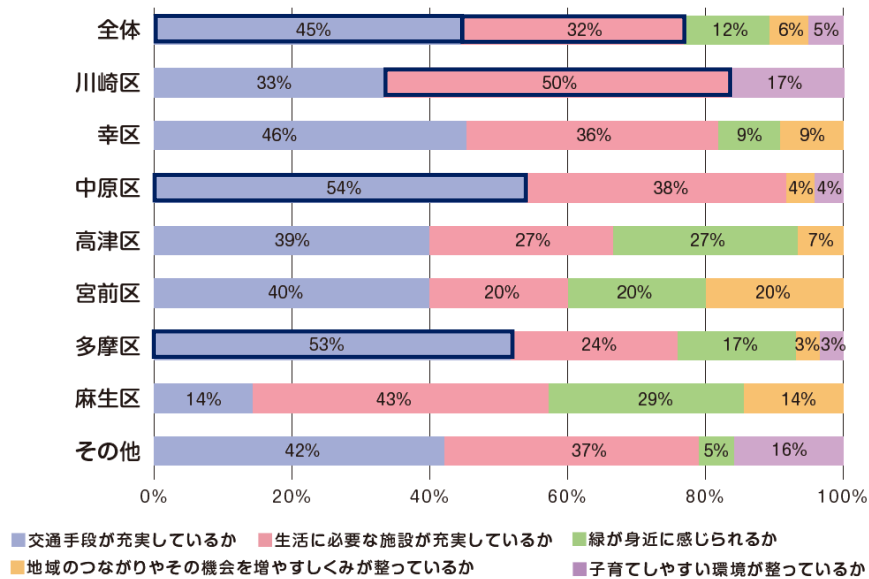


Q1-1. お住いの地域の住みやすさについて、最も近いと思うものを選んでください。



⇒居住地の住みやすさについて、全体として「とても生活しやすい」・「それなりに生活しやすい」の割合が83%を占めている。また、各区においても「とても生活しやすい」・「それなりに生活しやすい」の回答割合は半数以上を占めており、特に、幸区・中原区・多摩区については80%を超えている。

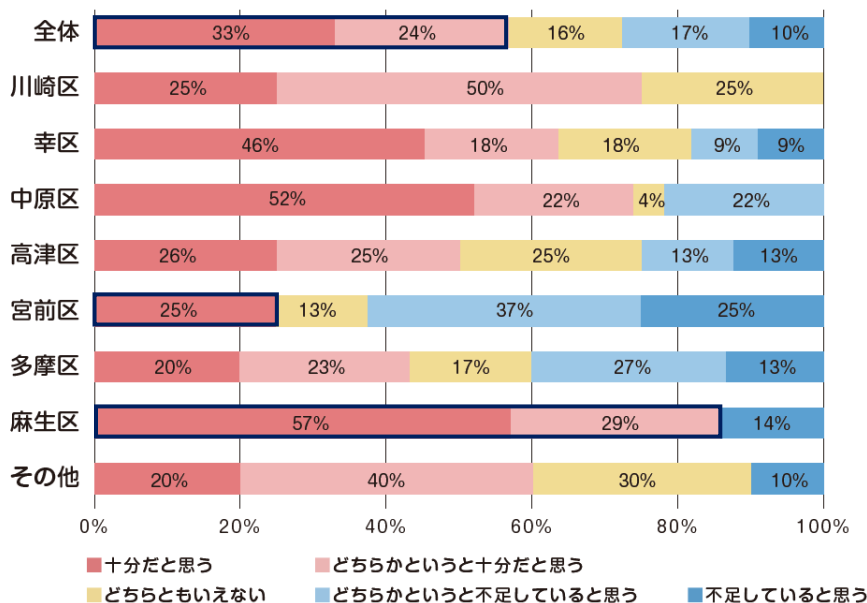
Q1-2. Q1-1の住みやすさを評価するにあたって、最も重視した項目を選んでください。



⇒住みやすさで最も重視する項目について、全体で一番多かった回答は「交通手段が充実しているか」で45%、次いで多かったのは「生活に必要な施設が充実しているか」で32%であった。特に、中原区と多摩区は「交通手段が充実しているか」の回答が、川崎区は「生活に必要な施設が充実しているか」の回答が、半数以上の高い割合を占めている。また、南部地域よりも北部地域の方が「緑が身近に感じられるか」を選択する割合が高くなっている。

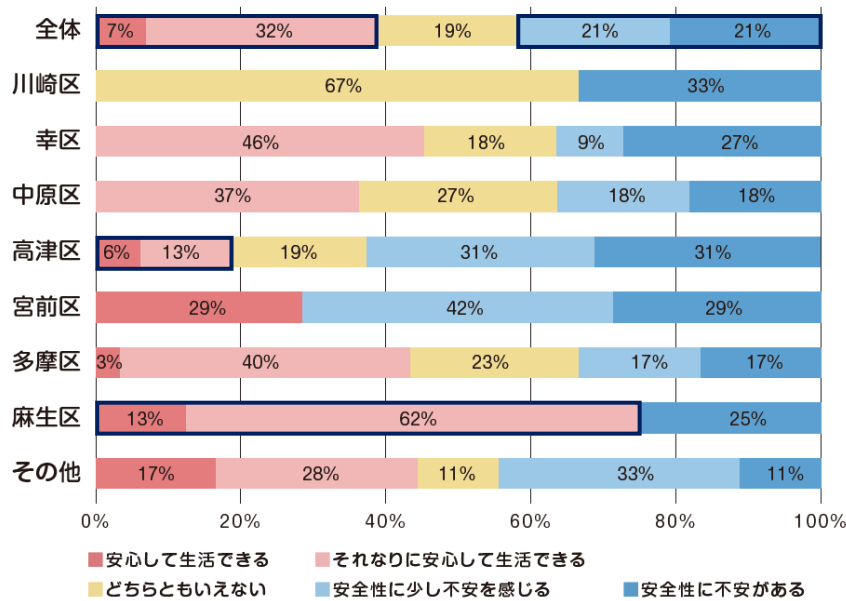
Q2. お住まいの区の拠点駅周辺の都市機能（商業機能、文化機能など）は十分だと思いますか。

(川崎区→川崎駅、幸区→新川崎・鹿島田駅、中原区→武蔵小杉駅、高津区→溝口駅、宮前区→鷺沼・宮前平駅、多摩区→登戸・向ヶ丘遊園駅、麻生区→新百合ヶ丘駅)



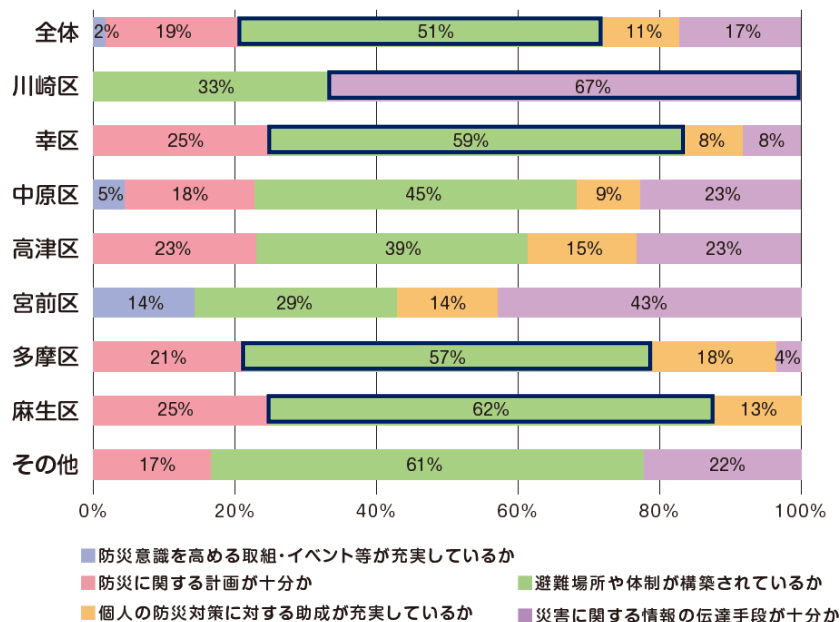
⇒都市機能について、全体としては「十分だと思う」・「どちらかという十分だと思う」が57%で、半数以上の高い割合を占めている。また各区で見ると、麻生区では86%と高い割合であるのに対し、宮前区では25%と低くなっており、各区で回答の傾向にばらつきが見られた。

Q3-1. お住まいの地域の浸水や土砂災害などの災害に対する安全性について、最も近いと思うものを選んでください。



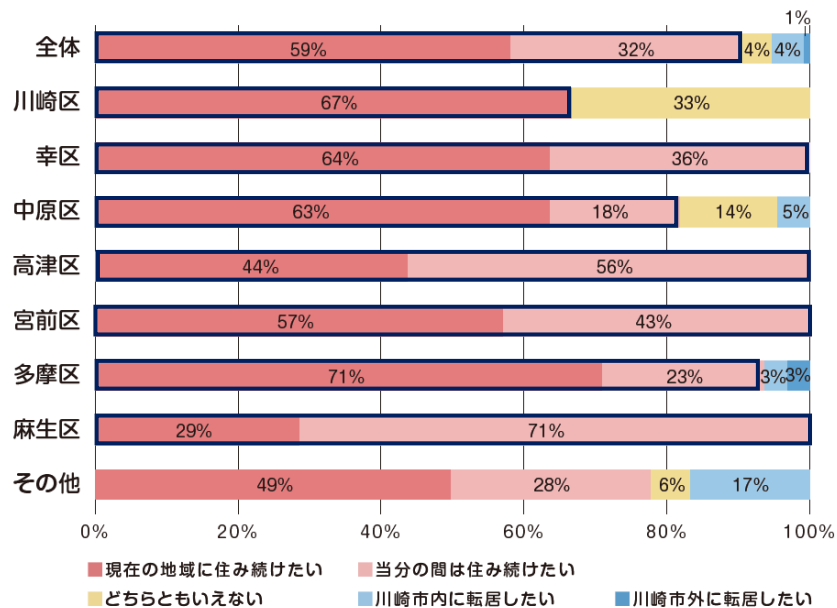
⇒安全性について、全体としては「安心して生活できる」・「それなりに安心して生活できる」が39%、「安全性に不安を感じる」・「安全性に少し不安を感じる」が42%と同程度の割合であった。また各区で見ると、麻生区では「安心して生活できる」・「それなりに安心して生活できる」が75%と高い割合であるのに対し、高津区では19%、川崎区では「安心して生活できる」・「それなりに安心して生活できる」の回答は無く、各区で回答の傾向にばらつきが見られた。

Q3-2. Q3-1の災害に対する安全性を評価するにあたって、最も重視した項目を選んでください。



⇒安全性で最も重視する項目について、全体で一番多かった回答は「避難場所や体制が構築されているか」で51%であり、特に、幸区・多摩区・麻生区は半数以上の高い割合を占めている。川崎区については、「災害に関する情報の伝達手段が十分か」の回答が特に多く、67%の高い割合を占めている。

Q 4. お住まいの地域に住み続けたいと思いますか？最も近いものを選んでください。



⇒今後の居住地について、全体として「現在の地域に住み続けたい」・「当分の間は住み続けたい」の割合が91%を占めており、また各区においても半数以上の高い割合を占めている。特に、幸区・高津区・宮前区は、回答者全員が「現在の地域に住み続けたい」もしくは「当分の間は住み続けたい」と回答しており、一番低い川崎区でも67%であった。

〈結果分析〉

① 居住

現在の居住地について、生活しやすい・住み続けたいという回答割合が高いことから、居住に関する既存施策の取組の推進を基本としながら、長期的には人口減少等に対応した持続可能な居住環境づくりを目指し、引き続き計画策定に向けた取組を進めていきます。

② 都市機能

現状の都市機能について、十分であるという回答割合が高いことから、将来的な都市機能の撤退や縮小を見据え、拠点駅周辺に必要と考えられる都市機能の維持や魅力向上を行うことを基本としながら、今後の再開発等を踏まえた都市機能の新たな誘導を目指し、引き続き計画策定に向けた取組を進めていきます。

③ 防災

安全性について、不安があるという回答が一定程度あったことから、防災に関する既存施策の取組の推進や、自然災害リスクとその対策の更なる周知・啓発に向けて、引き続き計画策定に向けた取組を進めていきます。